



一般質問..... P 2
9月定例会から

町議会審議結果..... P 6
定住自立圏の形成に関する協定の締結について
上川町過疎地域自立促進市町村計画について
一般会計補正予算（第4号）ほか

決算審査特別委員会審議結果
..... P 7

カナダ視察記 P 8

発行/上川町議会 編集/議会広報特別委員会



「4年ぶりの優勝に、笑顔の上川大雪クラブ」

一般質問

平成22年第7回町議会(定例3)の一般質問は、9月14日に行われ、5議員が町長の考え方を問いました。(掲載は届出順)

口蹄疫対策は

安部 議員

宮崎県で発生した口蹄疫ウイルスの感染経路は、今もって分かっておらず、本町内においても畜産、酪農家の予防に対する不安はつきないものと思われます。道は6月から、空港、港湾に消毒用のマットを設置する等の水際対策をとってきましたが、予算の関係もあって10月から続けるかどうかの判断をすると言います。この道の姿勢はいかかとも思われますが、本町において今日迄の対策と今後

の予防について教えて頂きたい。

町長 答弁

北海道と連動した対策を考えている



(旭ヶ丘地区の放牧風景)

口蹄疫は、本年4月20日に宮崎県で発生し、約29万頭の家畜が殺処分され4カ月余りという長期間にわたり、国内外に大きな影響をもたらしましたところですが8月27日に終息宣言が出されました。

上川町の今日までの対策としては、5月24日に普及センター・農協・畜産振興会・町による侵入防止対策検討会を開催し、関係者が一丸となって防疫対策を実施し

ているところですが、具体的には、畜産農家の対策としては、家畜の健康チェックの徹底、農場への関係者以外の立ち入り規制、畜舎出入り口の消毒槽の設置、消石灰の散布、車両等の消毒などの対応をしているところですが、

町としては、畜産農家への情報提供、住民周知としてパンフレットの配布、ポスターの掲示、役場玄関の消毒マットの設置をするほか、観光客の往来が多い層雲峡を中心とするホテル・旅館等への玄関の消毒マット及び消毒薬を町で購入し、各事業者に貸し出し、設置について協力をしていただいているところです。

また、北海道の口蹄疫緊急防疫対策事業の補助事業を活用し、上川町家畜自衛防疫組合で消石灰の配布及び動力噴霧器の導入を図っており防疫体制の強化を図っているところです。今後の予防につきましまして、8月27日に終息宣言が

出されたところですが、上川町としては、大切な家畜を守るため、北海道と連動した対策を考えており、国が10月上旬に予定している国際獣疫事務局(OIE)への「清浄国」の認定申請まで、引き続き現行の対策を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

雨水対策は

安部 議員

ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的大雨が全国的に家屋や人的、更に生産物被害を拡大しています。洪水ハザードマップを公表している道内51市町村の中でも本年度は対象外の支流が氾濫し、想定外の被害をもたらしています。本町においては、7月24日に1時間に40mmを超える集中豪雨により、下流域の排水路があふれ出



(大雨による増水で不安な様子の住民)

われまます局所的な集中豪雨による被害が各地で発生しております。

当町におきましてもご指摘のとおり、7月3日には1時間で42mmの降雨があり、時間雨量としましては、当町の観測史上第1位を記録いたしました。このときは東2丁目通の排水が布設替え工事の為に使用出来ないこともあり、下流域の敷力所で流下能力を超えて、あふれた所でございます。

旭ヶ丘地区活性化計画について

久米 議員

が発令された場合には、ルベシベ川からの用水の取水制限を速やかに行うことについても確認したところであります。しかし以前から大雨の時には浸水危険となる住宅もありますので、本町は地形的にJR鉄道横断と国道39号横断をとまなう場合には推進工法等で多額の費用が必要となることから、関係機関とも協議を進めると共に下水道事業の雨水管布設についても検討対象として進めてまいりますので、ご理解願います。



(旭ヶ丘地区管理運営等検討委員会の様子)

と仄聞(そくぶん)しているが、事業計画の収支がどのような試算になるのか。できれば、3年間程度伺いたいと思います。

町長 答弁

具体的な作業に着手している

今年度活性化計画で整備を進めるために必要な手続き及び施設設計のための現地測量調査等を実施すると

かんぽの宿 後始末について

久米 議員

年明け早々に新聞報道等

町長 答弁

下水道事業の雨水管布設についても検討

今年には異常気象が全国的に多発し、特に猛暑と言われる高温とゲリラ豪雨と言

また、土地改良区とも協議しまして、警報・注意報

3月以降、現時点までに進んできた内容についてと、今年度中に実施予定している計画について伺いたいと思えます。また、レストランの開業が来年夏以降

ともに、現在、上川町地域資源活用交流促進施設建設コンサルタント選定委員会及び管理運営等の検討を行う旭ヶ丘地区管理運営等検討委員会を設置し、具体的な作業に着手しております。レストラン事業計画の収支であります。このレストランの建設は町が実施し、施設を貸与する形態で運営されるものであり、町が直接経営にたずさわるものではありませんので、ご理解をお願いいたします。

があり、早期の解決を期待していたところですが、それつきり何の進展も無く層雲峡の入り口に無残な姿をさらしています。今さら言うまでもありませんが、町民等しく情けなく、また恥ずかしいような気持ちをもつて見ているわけであり、今後どのような対策をとっていくつもりなのか伺いたいと思います。

町長答弁

推移を注視していき

本施設は平成19年2月郵政公社から大江戸温泉物語(株)に払い下げられ、その後クロスビズ(株)に売却、その後直後に、(株)ネステージに不動産の現物出資されたため、現在の所有権は(株)ネステージにあるものと思われ、本年8月19日付の企業情報により、(株)ネステージは8月2日上場時価総額基準を満たすことが

出来ず、法的手続きによる再建を目指し民事再生法申請手続きを開始した、とされており、現段階ではこれらの推移を注視していきたく思いますのでご理解をお願いいたします。

企業誘致と未使用施設等の今後の活用について

中里 議員

昨年、各団体や地域で、町長との懇談会が開催され、多くの町民が参加いたしました。その中で、町長から層雲峡小学校廃校に伴う利用方法や、「キクスイ」の工場、障害者の授産施設、白水沢の地熱などについて話され、町民は期待を持って聞いたところです。企業誘致や未使用施設の有効活用によって、雇用促進や、町外からの訪問者が増加し、町に活気が蘇ることを、みんなが望んでいます。

今年に入って、進展している話が聞こえて来ませんがその後の進捗状況と対策について町長にお伺いいたします。

町長答弁

効果的な取り組みを進めていきたい

1 点目の層雲峡小学校跡利用につきましては、層雲峡地区の活性化に寄与し、文化的な施設として写真家を支援する方々が維持運営管理出来る形態を目指し、話し合いを進めてきております。基本的には、町が施設を提供し企業が資金を、写真家が作品提供という枠組みを前提に検討してまいりますが、資金提供を担う企業が現時点では校舎を改



(勢いよく地熱の蒸気が吹き上がる様子)

修しての利用では経費が大きく、会社の経費で支援することが困難との意向が示されたことから、早急に結論付けず再度検討していくこととしております。

2 点目のキクスイ工場施設につきましては、進出希望のある複数企業から接触があり、話し合いは企業間で前向きに行われていると報告を受けておりますが、町としても進出実現に向けて、後押しをしていきたいと思っております。

3 点目の授産施設につきましては、進出企業側から

道外と道内2カ所に進出を考えているが、道内進出を先に行いたいとの意向が示されており、早急に企業側と折衝を重ねていきたいと思っております。

4 点目の白水沢地熱開発につきましましては、エネルギー開発関係企業及び総合商社の2社が過去の調査データの内容を確認し、1社は先日現地確認まで実施するなど、地熱発電の可能性を見極めるべく初期的な調査を行うと同時に、関係官庁等の動向などを分析するなど積極的な動きとなつてきています。

上川町としても、今後これらの動きに連動して効果的な取り組みを進めていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

子宮頸がんワクチンの公費接種の件について

菅家 議員

女性特有の子宮頸がん、予防ワクチンの接種費用を公費で助成する市町村が道内でも179市町村のうち、すでに22市町村が助成を始め、19市町村が今後実施されることになっていきます。この件につきましては、署名簿を添えて要望をしておりますが、新年度で予算化にむけて町長のお考えを伺います。

で、予防効果が期待できるとされており、日本でも、昨年10月に初めて予防ワクチンが薬事承認され、12月から販売が開始されましたが、接種費用が3回接種で1人当たり約5万円と高額なこと、厚生労働省は平成23年度の予算概算要求で「子宮頸がん予防対策強化事業」を盛り込み方針を明らかにしております。



住宅リフォーム助成制度を

沢田 議員

をして、支援してまいりたいと存じますので、ご理解をお願いいたします。

現在多くの市町村で「住宅リフォーム助成制度」が設けられている。地域経済が低迷する中、地元業者の雇用の確保、また雇用の確保、自宅をリフォームして改善し、住みやすい住環境を願う町民の思いにこたえて助成制度を検討されることを提案したい。この「住宅リフォーム助成制度」を導入し取り組んでいる各地の実例、あるいは報告では町内経済への波及効果は非常に大きなものがあるとされています。

来年度は町発注の工事は激減が予想され町内経済、地元業者にとっては厳しい時を迎えるのは必至であり

ます。

この「住宅リフォーム助成制度」、例えば工事費は50万円以上、補助は工事費の10%、上限は20万円、工事は地元業者に限定する。などなど考え方は、いく通りもあると思えます。厳しい町財政下にはあるが一石二鳥の財源の動かし方になるのではないかと。平成23年度予算編成に向けての提案としたい。答弁を求めます。

町長答弁

上川町の現状にあった制度内容を調査研究する必要はある

本町におきましても快適な生活や年齢に応じた使いやすさ、維持補修の為、住宅リフォームの住民要望は多いものと思われ、土地整理事業をはじめとする駅前再開発関連の住宅建設も終わり、町内業者の仕事量減少は雇用問題にも影響があることは避け

られないことから、個人住宅のリフォーム工事などは仕事量の確保を期待できますし、さらには公営住宅等の年次計画による住宅建設についても検討していく必要がある。現在、提案の内容に近い補助制度は道内においても14市町村で住宅リフォーム補助制度として条例及び要綱により制度化しております。しかしながら、制度内容によって利用実績に大きな差もみられますことから、各自自治体における制度等の詳細について調査する必要があるものと思えます。

また、制度化を研究するにあたっては、高齢者対応のバリアフリー化や省エネ・新工法等の工コ住宅推進や国の補助制度などを具体的にどう活用できるか、なによりも住民にとって使い勝手が良い、上川町の現状にあった制度内容を調査研究しなければならぬと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

町長答弁

新年度に向けては予算措置をして支援してまいります

子宮頸がんは国内で年間約1万5000人が発症し、約3500人が死亡していると言われており、性交渉経験前の10歳代前半にワクチンを接種すること

子宮頸がんを防ぐためには、ワクチンの接種だけではなく、定期的に子宮頸がん検診を受けて、早期発見することが大切だとも言われておりますことから、町としては、がん検診と一体的な対応も検討する必要があります。国・道の動向を見極めながら、重要な課題の一つとして、新年度に向けては我が町において具体的な予算措置

決算審査特別委員会審議結果

《決算審議で質疑応答がなされた中の総括質問の一部を紹介します。》

質 問	答 弁
社会福祉協議会への運営にあたり町として財政支援の考え方について	基金が底をつくような事態になれば、行政としてはしっかり支援するという姿勢でいきたい。
ふるさと創生基金が底をついた場合の対応策について	事業形態や個人負担等も含めた事業内容の検討や方向性について、議会に相談しながらやっていきたい。
ふるさと夢大使について	夢大使と接触をすることもないのが今の現状なので原点に戻して一度、見直しをしてみる。
放棄林の町有林化について	非常に広範な効果を生み出す事業であることから、「上川町森林・林業再生プラン」を基に積極的に進めたい。
黒岳の湯の今後について	事業の見直しも含めて考えている。
老朽化した施設の維持管理など事業の見直しについて	引き続き町の手によってやっていくのがいいのかなど見直しをしていきたい。
予算編成やいろんな事業計画の情報公開について	極力オープンな形で進めていきたい。また、いろんな場面で議論もしていただきたい。

町議会 審議結果

7月臨時議会

平成22年第6回上川町議会（臨時4）は、町道路線の認定や平成22年度一般会計補正予算（第2号）など4件が審議されました。主な内容は次のとおりです。

可決議案等

町道路線の認定は、北海道が現在整備を進めている東2丁目通の跨線橋の整備に伴い、東2丁目線と各町道を結ぶ側道線を認定するもの

一般会計補正予算（第2号）は、歳出において、子供手当事業として臨時職員賃金及び共済費並びに需要費等60万4000円、パン

ケフエマナイ川導水路整備費90万円、町営球場外野フェンス修繕料33万5000円の補正、歳入において、子ども手当事務取扱交付金58万6000円、繰越金125万3000円の補正

町立診療所事業特別会計補正予算（第2号）は、歳出において、検査用据置型及び救急用携帯型超音波診断装置の購入費76万5000円の補正、歳入では、診療所事業債（過疎債）760万円、繰越金6万5000円の補正

議員派遣は、8月20日札幌市で開催される議会広報研修会に議会広報特別委員会委員が出席するもの

9月定例会

平成22年第7回上川町議会（定例3）は、平成21年度一般会計ほか9会計の決算認定についてや定住自立圏の形成に関する協定の締結について、条例の制定な

ど27件の議案と一般質問が行われました。主な内容は次のとおりです。

可決議案等

専決処分（一般会計補正予算（第3号））は、高原温泉道路災害復旧工事700万円の補正

平成21年度一般会計ほか9会計の決算認定は、審査特別委員会に付託

定住自立圏の形成に関する協定の締結は、広域行政の新たな取り組みとして定住自立圏構想推進要綱が制定されたところであり、旭川市との定住自立圏の形成に関する協定を結び役割分担を行いながら圏域の活性化を図るもの

上川町過疎地域自立促進市町村計画は、過疎地域自立促進特別措置法の一部改正に伴い、平成27年度までの6年間の整備計画を策定するもの

上川町森林環境整備基金条例の制定は、「上川町森林・林業再生プラン」の取

り組みを総合的かつ円滑に推進するため基金を制定するもの

一般会計補正予算（第4号）は、歳出において、看護師宿舎解体費383万3000円、国税連携サービス導入及び申告相談システム改修費247万8000円、福祉車両購入費454万円、上川高校通学費等補助金392万5000円、新型インフルエンザ予防接種事業費220万2000円などの補正。歳入において、これら事業実施に伴う国・道などの補助金等、他会計繰入金、繰越金などの補正

国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）は、前年度療養給付費等負担金及び特定健康診査等負担金の確定による過年度精算などによる補正

介護保険事業特別会計補正予算（第2号）は、前年度保険給付費及び事務費の確定に伴う、過年度精算などによる補正

町立診療所事業特別会計補正予算（第3号）は、診療所職員住宅にかかる修繕料ほかの補正

町長からの

行政報告

大雨による被災について

8月24日の大雨による被災状況について行政報告を申しあげます。

8月23日から24日にかけて前線を伴った低気圧が上川中部にかけ非常に強い線状降雨域が形成され、ゆっくり南下したため上川中・南部で大雨となり、中央部において大きな被害をもたらしたものであります。

上川町においては、沼の原で23日の降り始めから24日午前8時まで116mmの雨量を観測し、特に明け方を中心に1時間に30mmの強



（大雨により一部洗掘された町道高原温泉線）

い雨が断続して降ったところであります。この大雨により、町道高原温泉線において3地点で路肩等の一部洗掘（せんくつ）と、以前に施工した大

型土のうの流失があった他、越水（えっすい）等により路面が削られるなどの被害がありました。また、観光客の乗用車が荒れた路面で立ち往生し通行できない状況でありましたが、24日15時30分頃応急作業が完了し下山したところであります。

これにより、同路線は危険を伴うことから一般車両通行止め措置を講じ、ゲートを閉鎖しているところがございます。また、宿泊客については山荘従業員による誘導のもと通行を許可することとし、危険箇所にはシートによる法面保護及び安全ロープ等により安全確保を図り通行している状況であります。

なお、マイカー規制が控えていることから復旧作業にかかる費用につきましては、専決処分により補正予算で対応してまいりますのでご了承をお願いいたします。

委員会の動き

議会運営委員会

7月29日 第6回町議会臨時会（臨時4）の運営について

9月9日 第7回町議会定例会（定例3）及び平成21年度決算審査特別委員会の運営について

産業福祉

9月17日 所管事務調査平成22年産農作物の作況について、平成21年肉牛農家経営状況について、その他（1）町営牧野の利活用についてを調査事項とし、農作物の作況につい



（総合乾燥施設でそばの選別を視察）



（東雲地区の作況を視察）

て説明を受けた後、現地視察を行いました。

議会広報特別委員会の新しい顔ぶれを紹介

副委員長



沢田 武志

委員長



笠間 法考



安部 逸雄



菅家 幸雄



遠藤 和男

意見書の提出

道路の整備に関する意見書

提出者

上川町議会議員 菅家 幸雄

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣

編集後記

今年には日本列島異常気象。大変な暑さによる熱中症、また集中豪雨による被害等、さんざんな夏でした。出来秋の収穫も作物によっては良、不良、ばらつきがあったようです。景気の低迷は一向に回復のきざしが見えませんが、この先が心配です。

9月定例議会も終わり、議会広報139号ができました。ぜひ一読下さい。また議会広報についてご意見があればお寄せください。

（沢田 記）

議会広報特別委員会

委員長 笠間 法考
副委員長 沢田 武志

委員 菅家 幸雄
" 遠藤 和男
" 安部 逸雄